

遠山川づくり会議

河床回復の効果を確認

南信濃 モニタリング結果を報告

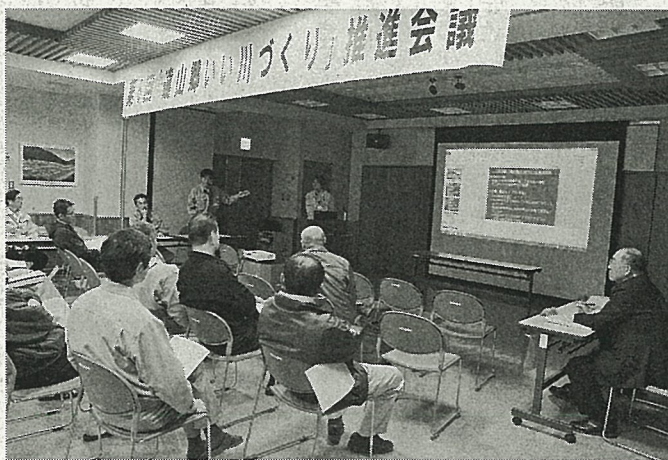
飯田市南信濃地区を流れる遠山川の整備をめくり、県下伊那南部建設事務所と住民が協働する「遠山郷いり川づくり推進会議」(会長・玉置洋一南信濃まちづくり委員会会長)は24日、南信濃自治振興センターで第6回会議を開いた。工事後、河床回復の効果が確認できたとするモニタリング調査の結果報告や新たな工事計画、愛護活動について意見交換した。

会議を構成する地元住民ら約20人が参加した。効果や環境影響などを確認するため、出水前と出水後の時期に分けて実施したモニタリング調査の結果報告をした。

県は昨年度に、遠山中学校付近と中橋付近で河床低下を防ぐ帯工床張工、護岸保護を目的とした根固め工などを実施。会議では施設下流の帯工の上流で河床の上昇が見られたも、課題となっていた。遠山中学校前の帯工でも「河床低下の防止効果があったと考えられる」とする一方、想定範囲内で自然石で

組んだ帯工の一部の移動が確認され、帯工中央部では上流側河床が広く流出低下したと説明した。

新年度は10月に工事発注し、かぐらの湯付近の護岸工を実施する計画。遠山中学校付近の帯工について同事務所は「今後もモニタリングを継続し、大きな出水後の状況も確認しつつ、必要に応じて補



南信濃で開かれた推進会議

リニア建設に1130億円

JR東海 重点施策と設備投資計画発表

JR東海は24日、2018年度重点施策と設備投資額を連結で発表。携を重視して着実に取組、用地取得などの遂

している。山梨リニア実験線での技術開発にも30億円を計上した。

2編成を交互に運転する長距離走行試験を引き続き行う他、営業運転に対応した保守体制の確立に向けた検証やコストダウンに取り組む。

南信州カップ 4月26日に第48回大会

南信州 参加申し込み受付中

修などの工事を検討したい」とした。同会議は「人・自然文化のハーモニー! 奏でつつける遠山川」の推進を目的に、河床回復や水際広場の設置を予定している。

3人までを1団体とし、4人以上参加は企業A、Bと分割。新ペリア方による上位2人のトリスコアで優勝。また、参加者が個人戦にも登録。同点の場合は、ディ、年齢順で決

東京の山崎周年を記念、りの深い日本牛(1888)の作品展が同館所蔵品を中心に、活動初期から晩年の代表作を一堂に展示している。梶田半古、小林古径に師事し、38歳で院展初入選。以後、日本美術院で活躍し、超えるまで制。現在の武や東京芸術大導にも当たっ